

議論のまとめのイメージ（案）

■課題

- 現状では、法学未修者の多様なバックグラウンドに十分配慮した教育が必ずしもなされていないため、法学未修者の1年次教育について、学修者本位の教育の実現という視点から、積極的に充実させる必要があるのではないか。
- 法学未修者の1年次教育を充実させた上で、2年次から法学既修者と同一課程で学ぶことができるようにするため、法学未修者の法学への適性や将来の司法試験合格可能性も含めて1年次教育の成果を厳格かつ客観的に評価した上で進級させる必要があるのではないか。
- 法科大学院の修了生が法曹以外でどのようなキャリアを積んでいるか必ずしも明らかではない一方で、社会における法的ニーズがますます多様化していることを踏まえ、多様なバックグラウンドを有する修了生が多様なキャリアで活躍できるよう積極的に支援すべきではないか。

■課題を踏まえた対応策

1. 学修者本位の教育の実現（論点3 関係）
2. 社会人学生の生活実態に対応した学修体制（論点4 関係）
3. 効果的・効率的な学修に向けた法科大学院間の協働（論点5 関係）
4. 共通到達度確認試験の活用による厳格かつ客観的な進級判定
(論点6 関係)
5. 法科大学院修了生のキャリアパスの多様化（論点7 関係）

■今後のさらなる検討課題